

1. 歯科技工とは

「歯科技工」とは、特定人に対する歯科医療の用に供する補綴物、充填物または矯正装置を作成し、修理し、または加工することをいう（歯科技工士法 第2条）。この法律において「歯科技工士」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、歯科技工を業とする者をいう。

従来から、歯科技工は、歯科医師法に規定する歯科医業の範囲外のものとして法的規制を受けることはなく、歯科技工士は歯科医師による指定的養成に委ねられてきたが、次第に歯科技工業務の質の向上に対する要求や歯科技工を業とする者の身分、および業務内容に一定の規制などを加えることの必要性が生じ、1955年に「歯科技工法」が制定された。さらに1994年には「歯科技工士法」へと法改正が行われ、現行の歯科技工士法では歯科技工士の資格、業務、歯科技工所などについて規定されている。

2. 就業歯科技工士数

平成24年度の厚生労働省の調査¹⁾では、就業歯科技工士数は34,613人で、2年前に比較して800人（2.3%）の減少である（図1）。就業歯科技工士のうち女性の比率は約25%である。就業場所では、70%が歯科技工所、28.7%が病院、診療所勤務で、その他は学校の教員などである。また、歯科技工所数は19,706カ所²⁾で、10年前に比較して約1,000カ所増加している。歯科技工所のうち、約75%は小規模歯科技工所（5人以下）である。さらに、近年、歯科技工士の若年者数が激減し、25歳未満は5.1%で減少傾向にあり、約30%は50歳以上で増加傾向にある（図2）。

3. 免許制度

歯科技工士資格は国家資格であり、歯科技工士国家試験は、厚生労働大臣によって毎年1回実施されている。試験に関する事務の全部または一部は、政令の定めるところにより、都道府県知事が行えることとなっており、現在は都道府県単位で実施されている。したがって、試験の実施日程は2月から3月にわたって各都道府県で行われ、出題基準は歯科技工士養成所教授要綱を参考に作成されているが、出題基準から逸脱する試験問題もあり、出題数、出題内容、実施時間、試験委員の選出方法などが各都道府県で大きく異なっている。

国家試験は、学説試験と実地試験が行われ、学説試験は、歯科理工学、歯の解剖学、顎口腔機能学、有床義歯技工学、歯冠修復技工学、矯正歯科技工学、小児歯科技工学、関係法規の科目について実施され、実地試験は、歯形彫刻（石膏またはワックス）、総義歯の人工歯配列と歯肉形成が必須で、任意問題として8課題のうちから1課題が出題される。現在、厚生労働省の「歯科専門職種の資質向上検討会」（平成25年度）において、歯科技工士国家試験の全国統一化について審議されている。

4. 教育機関および制度の現状と展望

歯科技工士の教育に関しては、全国歯科技工士教育協議会が中心となって検討され、専任教員の講習事業も積極的に行われている（図3）。現在、歯科技工士の養成機関は53校あるが、文部科学大臣指定校の歯科技工士学校（11校）と厚生労働大臣指定校の歯科技工士養成所（42校）がある。また、4年制大学が2校、短期大学（2年制）が2校、3年制専門学校が1校、2年制専門学校が48校ある。また、歯科医師会立は14校、

^{*1} Dental Technician

^{*2} Kazuhiko Suese 大阪歯科大学歯科技工士専門学校

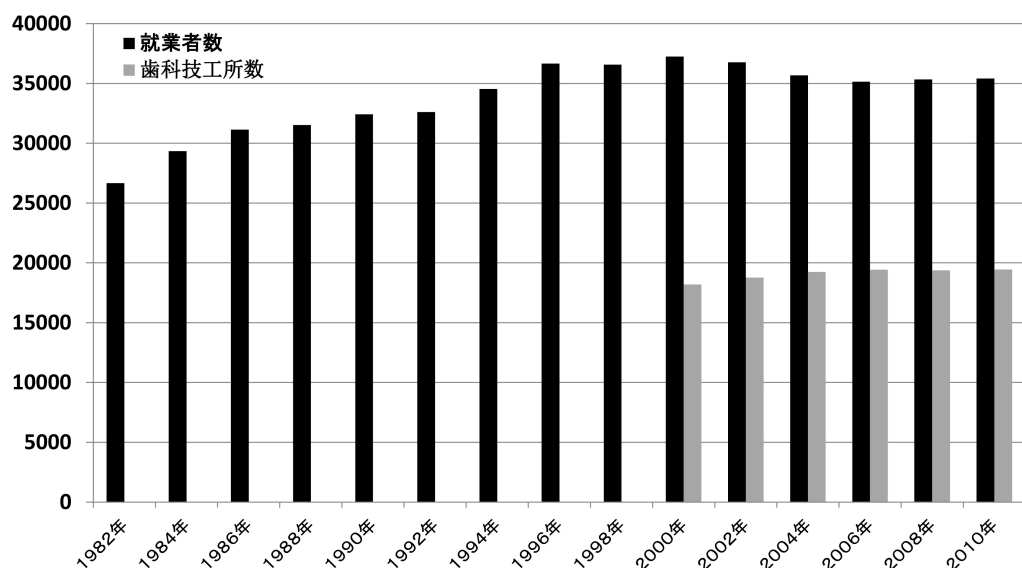


図1 歯科技工士就業者数と歯科技工所の推移

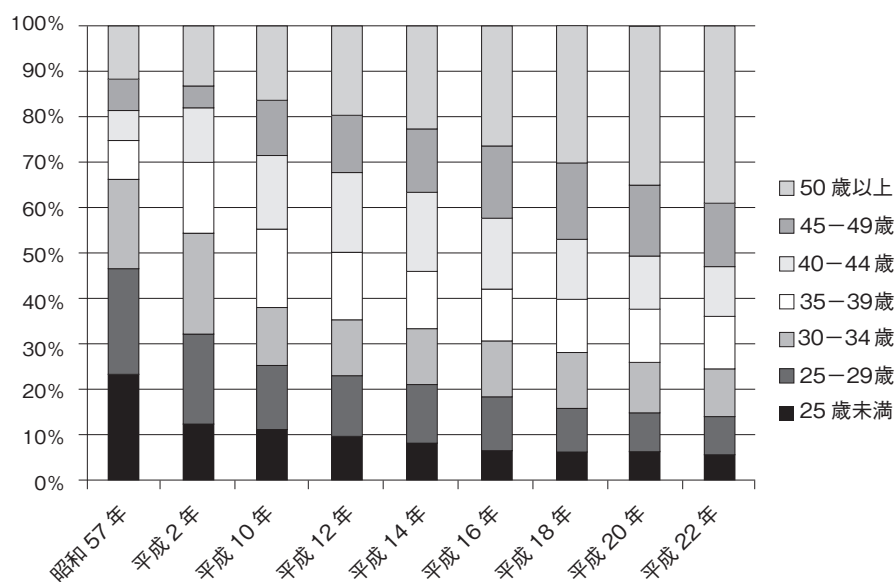


図2 年齢層別歯科技工士就業者数の比率の推移

私立学校は26校、公立校（県立）は2校である。

全国の歯科技工士養成機関への志願者数、入学者数について図4（平成24年度全国歯科技工士教育協議会実態調査）に示す。過去10年くらいにおいて急激な減少傾向を示し、養成機関数も2000年には72校あったが、2013年には53校に減少した。また総定員も2,800名から1,900名に

減少し、さらに2013年における定員に対する充足率は約70%になっている。

歯科技工士の教育を受けたものが「学位」（口腔保健工学）の認定を受ける方法としては、①4年制大学を卒業する、②短期大学または専門学校の専攻科が学位授与機構から認定専攻科の承認を受け、学位授与機構に書類を提出して試験と審査

講習会	主催・後援	内容	期間	開催回数
新任教員講習会	全技協	教育方法	5日間	隔年1回
専任教員講習会Ⅰ	全技協	カリキュラムプランニング・試験問題作成方法	4日間	毎年1回
専任教員講習会Ⅱ	全技協 厚生労働省	教育方法	2日間	隔年1回
歯科技工士実習施設指導者等養成講習会	全技協 厚生労働省 [助成]	歯科技工実習方法	4日間	毎年1回
実技研修会Ⅰ	全技協	実習指導・評価法	2日間	毎年1回
実技研修会Ⅱ	全技協 関連企業	先端技術の習得	1日間	毎年2－3回

図3 全国歯科技工士教育協議会で実施している専任教員講習会

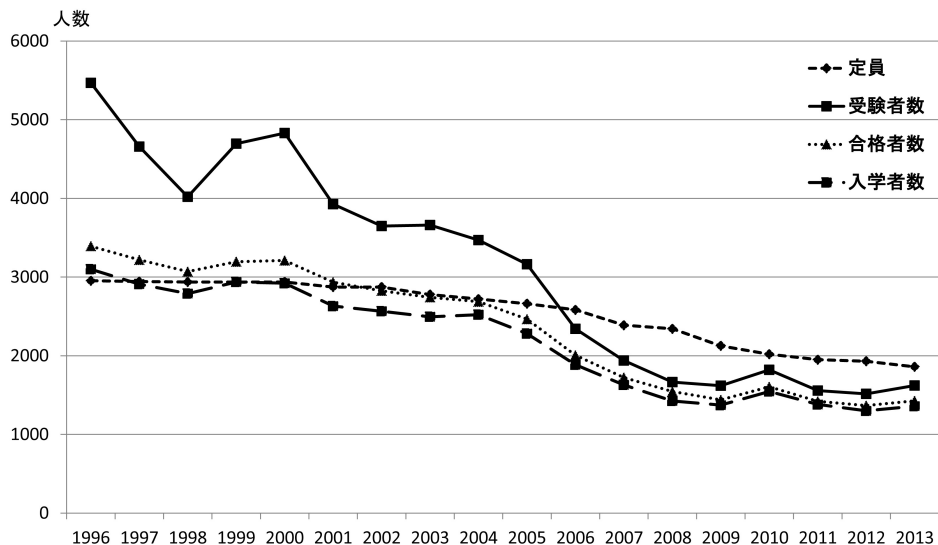


図4 歯科技工士養成機関への志願者数、入学者数

によって取得する、③短期大学、専門学校等を卒業し、大学歯学部で科目等履修生として在籍、所定の単位を履修して学位授与機構に申請する方法がある。

現在、歯科技工分野における4年制大学は広島大学（平成17年度から）と東京医科歯科大学（平成23年度から）の2大学あり、学生は歯科技工以外の分野も含めて学んでいる。既に学士とともに修士を輩出している広島大学においては、就職先も歯科技工に限らず、医学、薬学、保健学、工学、行政など多岐にわたる。このことは、口腔保健学を専攻する学生の活動分野は、歯学部卒の

歯学士に比してはるかに広いことを示している。

②については日本歯科大学東京短期大学が、また③については日本大学歯学部歯科技工士専門学校が実施しているが、まだまだ志願者が少なく、今後の啓発が必要である。

現在、歯科技工士学校養成所指定規則では、修業年限は2年以上、2,200時間以上の履修が定められているが、ほとんどの養成機関においては2年間で2,500時間以上の履修が行われ、その約2/3は技工実習である。しかし、近年の歯科医療の革新によって、国民に対する安全、安心、信頼の歯科医療が求められていることから、歯科技工分野

	2 年制(62 単位)	3 年制(93 単位)	2 年制(現行科目)	3 年制(追加教科目)
基礎分野	4	8		
科学と技術の基盤			外国語	情報処理
人間性と社会生活との理解			造形美術概論	社会福祉学
				倫理学
				保健体育
				経営学
専門基礎分野	15	24		
歯科技工と歯科医療	3	6	関係法規	医療関係法規
			歯科技工学概論	歯科技工管理学
				感染予防学
歯・口腔の構造と機能	6	9	歯の解剖学	歯・口腔解剖学 (加齢現象含む)
			顎口腔機能学	口腔機能学
歯科材料・歯科技工機器と 加工技術	6	9	歯科理工学	生体歯科材料学
				歯科技工機械学
				CAD システム工学
				課題研究
専門分野	43	61		
有床義歯技工学	13	18	有床義歯技工学	高齢者歯科学
歯冠修復技工学	12	17	歯冠修復技工学	歯周病学
矯正歯科技工学	2	3	矯正歯科技工学	インプラント技工学
小児歯科技工学	2	3	小児歯科技工学	審美歯科技工学
歯科技工実習	14	20	歯科技工実習	顎顔面技工学
				臨地・臨床実習

図5 歯科技工士養成機関における大綱化されたカリキュラムモデル(案)

においても、感染予防、高齢者に対する対応、新しい技術としてインプラント技工、歯科審美、CAD/CAM テクノロジー、レーザー加工など、さらには経営学や倫理学などの必要性が求められている。さらには、歯科医療技術者として養成期間修了後は、直ちに歯科医療現場での業が求められることから、教育機関中における臨床・臨地実習を実施しなければならない。このような観点から3年制以上の修業年限も視野に入れなければならない。図5は平成13年度厚生科学研究(今後の歯科技工士に対する養成方策等に関する総合的研究)でまとめられたものであるが、2年制から3年制へ移行が行われる場合の大綱化に基づく、必

要な教科内容の試案を示した。

5. 歯科技工士の専門性

歯科技工士も将来的には専門特化した分野の技工技術を保持することが望まれるが、現在学会が発行している歯科技工士に関する資格については、(一社)日本歯科技工学会 歯科技工士認定士、(公社)日本口腔インプラント学会 インプラント専門歯科技工士、日本歯科審美学会 歯科技工士認定士、日本顎顔面補綴学会 歯科技工士認定士、日本顎咬合学会 認定士歯科技工士などがある。これらはいずれも各学会の規程に基づき試験、書類審査、口頭試問などが行われている。

6. 歯科技工分野の将来展望

歯科技工は修復物の製作や修理などを担当する専門領域として、歯科医療を根底から支える分野である。超高齢社会に突入したわが国において健康長寿を目指すためには、今後ますます増加するであろう国民の歯の欠損修復への対応において、きわめて重要な職種となる。歯科技工分野においても CAD/CAM システムに代表されるようにデジタル化が進み、これまで以上に安全、安心な材料および製作法が可能になってきた。さらに歯科

技工士の専門特化された技能が加わって、高品質、高精度な補綴装置の提供が可能となる。我が国における歯科技工士制度や教育は世界を凌駕するものであり、技術だけでなく知的財産として世界をリードする立場でもある。

■文 献

- 1) 厚生労働省ホームページ. <http://www.mhlw.go.jp/tokei/saikin/hw/eisei/2013>.